



木のじゅ命は、どれくらいなの

じゅ命が1万年以上といわれている木もある

木は、動物より長生きのものが多く、今、世界でいちばん長生きとして知られている木は、アメリカのカリフォルニア州立公園に生えているセコイアメスギで、およそ1万2000年とされています。木の年輪などを調べている学者によると、セコイアオスギのじゅ命は、6000年、ブルスリコーンマツは、およそ5500年だそうです。

日本の屋久島にあるヤクスギも、2000～3000年前ぐらいから生き続けているといわれています。

でも、これらは、特別に長生きな木の種類であって、カキ、リンゴ、モモ、クリなど、果樹園で植えているような木は、せいぜい数十年から、長くても数十年で、100年以上も生きられる木は、ほとんどありません。果物を収穫するために植えている木は、木が年をとってくると、実が少なくなったり、りっぱな実がなくなります。

大型の生物ほど、長生き

生き物は、成長して大型になるものほど、おとなになるのに時間がかかり、じゅ命も長いといわれます。だから、大木になる木ほど、じゅ命は長いといえそうです。今、世界最大の木といわれているのが、アメリカのセコイア国立公園にある、じゅ命が長いセコイアオスギ(シャーマン将軍の木とよばれている)です。木の高さは、83.82メートル、幹のまわりは、31.3メートルもあります。

生えている所の土の成分や風向き、気温、日光のあたり方などの環境によっても、木が、元気に長生きできるかどうかは、ちがってきます。人間よりはるかに長生きの、木のじゅ命を調べるのは、なかなかむずかしいものです。(監修・矢野 亮)

